



地域支援コラム

【2学期の巡回相談について】

○学習・自立活動等の指導 (C 小学校：1年生女子)

C 小学校の肢体不自由がある1年生女子児童の巡回相談では、主訴として学習の仕方や自立活動、他児との関わり方等について相談を受けました。算数（通常の学級）「形の学習」は、グループワーク・個人のタブレット型端末を使用しながらの学習でしたので、グループに入りながらも個別に教材に触れる時間の設定をしました。助言内容としては、お菓子の空箱を活用し触覚、聴覚、固有覚での刺激の受容をめざしました。（○の形・□の形等）姿勢維持のため、座位保持いすとカットアウトテーブルを使用していましたが、テーブルの隙間に両肘が落ちるため、タオルを入れて対応し、クッションや腕置きの使用についても伝えました。タブレット型端末は教員が本児の手指を持って操作していましたが、手指が届きにくい様子でした。腕を上げる力や、握る力はあるため、タッチペン+目玉クリップの使用方法を紹介しました。体育（通常の学級）は、「鉄棒・なわとび」の学習でした。鉄棒で足を浮かせてグーチョキパー（ツバメ）、前跳び、並べた「なわ」を両足でジャンプして進み、最後に本児にタッチをする活動でした。本活動の中で、本児と一緒にできる方法を伝えると、鉄棒の活動では、バギーに乗ったまま言葉かけをしながら教員が本児の足を動かすと、自分で足を動かすことができました。なわとびでは、教員と両端で持ち、引っ張り合う活動をすると両手で持って引くことができました。友だちが近寄りタッチをする場面では、本児の嬉しそうな笑顔が見られたので、友だちとの関わりを授業に取り入れている活動はぜひ続けて欲しいと伝えました。

自立活動（支援教室）では、プロンボード立位での手を使う学習について相談がありまし

た。プロンボードは2学期から学校で使用を始めたということ、夏休み中のデイでの使用時に泣いて顔をブンブン振ったり、立位の途中で足の血流が悪くなったりすることでした。助言内容としては、①ストレッチの時間をとる。（足の曲げ伸ばしや、足裏ストレッチく刺激を入れる）。②足の血流については、立った後にも様子をみながらふくらはぎや足首をマッサージする。ことを伝えました。

手を使う学習では小さな木製の型はめをしていましたが、手元を見ることや、固いものは握りづらそうに見られました。児童の様子から、興味関心が強く、物に手を伸ばすこと、握ること、引っ張ることが可能だったので、現段階は手の操作性に重点を置くよりも、見やすい高さで教材を見る活動、いろいろな感触に触れたり、持ちやすいものや（丸い物、スクイーズ等）、引っ張るような教材を取り入れたりするのがよいのではないかと伝えました。

次回の支援では、斜面台や手作り教材を紹介し、実際に本児に体験してもらう予定にしています。